

「不易流行」

くよき伝統を守りながら(不易)

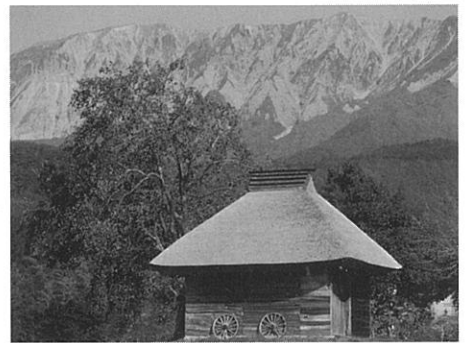
進歩に目を閉ざさないこと(流行)によって、

「理想」を創造する

『関係人口』が 地域にもたらすもの

平成29年秋の叙勲受章者が発表されました。建設業振興功勞により旭日双光章を川端雄勇さんが、教育功勞により瑞宝双光章を加持谷典範さんがそれぞれ受章されました。長年の功績が認められたもので、心からお祝いを申し上げます。また平成29年度の文化勲章受章者の中に、江府町にゆかりのある人がおられました。大阪大学名誉教授の松原謙一さんで、分子生物学の研究者です。お父さんが江府町のご出身です。

さて、御機の茅葺小屋の修繕が終わりしました。多くのボランティアの皆さんの協力により、新しい姿に生まれ変わり、この地を訪れる皆さんに喜んでいただいています。この事業を進めるために、ガバメントクラウドファンディングという仕組みを使い、ご寄付を募りました。その際に、大きくお力を貸していただいたのが、御机出身で東京でご活躍し



ておられる、新壽夫さんです。新さんはご自身がご寄付なさるだけでなく、高校の後輩にあたる安田定明さんにも声をかけていただき、そのお力もあり目標額を大きく超える成果を達成することができました。新さんは現在14名おられる江府町ふるさと大使のお一人でもあり、毎月お送りしている町報をていねいにご覧になつていきます。まちをよくするためアイデアもたくさんお持ちです。江府町を持続的に発展させるためには、江府町ふるさと大使の皆さんを始め、奥大山・江府町に関心を持つてくださる人とのつながりを広げ、深めていくことが重要です。町外から人・物・資金・アイデアを地域にもたらすために、「関係人口」を今後一層、増やしていきたいと考えています。

「3000人の楽しい町」 プロジェクトチーム報告

新庁舎の設計に、町民の皆様からの声を反映させることを目的としたワークショップも、今回で3回目。いよいよ、意見のとりまとめを行う段階です。

6月9日(金)と9月2日(土)の町民ワークショップを通して、新庁舎に必要なものは何か、話し合いを重ねてきました。その中で特に意見が多かったのが、「多目的スペース」「カフェなどの交流スペース」「大山の景観を生かした構造・文化的ギャラリ」の3つの点です。

そして今回、11月27日(月)に行ったワークショップでは、これらのポイントを実現可能な形にまとめ、次回の庁舎建設特別委員会提案できるような具体的に掘り下げてゆくことを目標としました。

叩き台としてプロジェクトチームが試作した提案書とイメージ図を基に、「多目的スペースはどのように使うか、どんな設備が必要か」「カフェの配置はどうするか」「大山の景観を生かすには何が必要か」といったことを、想像力を最大限に發揮して話し合っていました。どのグループでも白熱した議論が

繰り広げられました。やはり一番の論点となったのは多目的スペースの利用方法についてです。様々な会議はもろろのこと、議会や災害時の避難所といった行政に関係する用途から、コンサートや映画鑑賞などイベントホールとしての利用、仕切りで部屋を分割し、同時に異なる目的で使えるようにするなど、「やりたいことを何でもできる」多目的スペースにしたい、という意見が多く挙がったように思います。たくさんの方のご参加、またご協力いただきありがとうございます。



▲イメージ図に想いを描く参加者のみなさん

動画で町報こうふ!



以前の報告会の様子は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。